

# KOBE AWAY PRESS

We aim to provide a pleasure of watching away game, dreaming the spectacle of away crowd covered in crimson red.

Free!!

#73

WE ARE KOBE

2024.11.23

Kick Off

私達にはアウェイ戦のゴール裏をクリムゾンレッドで埋め尽くすという夢があります。一人でも多くのヴィッセル神戸サポーターにアウェイ観戦の楽しさを届けたい。KOBE AWAY PRESSはこうした思いから生まれた情報紙です。KOBE AWAY PRESSは関東サポーター有志により自主的に制作されています。



あの日から1,788日。この日がやってきました。あの日と同じ「聖地・国立競技場」。プロ・アマ問わず、日本で一番強いサッカーチームを決める伝統のトーナメント「天皇杯 JFA 第104回全日本サッカー選手権大会」の決勝です。我々がヴィッセル神戸の昨年から快進撃については、もはや語るまでもないでしょう。大迫・武藤をはじめ、佐々木大樹・宮代大聖・パトリックらの強力な攻撃陣。井手口・扇原・井出・森岡ら経験豊富な中盤。初瀬・酒井・本多・広瀬といったタレント揃いのサイドバック。山川・トゥーレル・菊池・岩波らの強力なセンターバック。ゴールキーパーは日本代表の前川、そしてインテル・マイアミ戦のPK戦で大活躍した新井が控えています。吉田孝行監督のもと、誰が出場しても同じ戦術を高いクオリティで遂行できるチームが完成しました。対戦相手は、青黒の名門ガンバ大阪。指揮を執るのはタニエル・ポヤトス監督です。今年は2年目、準々決勝で広島、準決勝で横浜F・マリノスといった強豪を破り、決勝に進出しました。ここ5年間の対戦成績は神戸の5勝4敗1分。何度も戦ってきた両者ですが、天皇杯での対戦は意外にも今回が初めてです。私たちは昨年のリーグ王者。そして4度の天皇杯制覇を誇るガンバ大阪に堂々と立ち向かい、再び栄光を手にする挑戦者です。ヴィッセル神戸の歴史に「日本一」の称号が刻まれたあの日、多くの神戸サポーターが国立競技場に集結しました。今日も、スタジアムは深紅に染まっていることでしょう。あの時と同じ言葉を再びここに刻みます。

ここに集った神戸を愛する人たちは、仲間であり、戦友です。サポーターの想いは、選手に届きます。サポーターの熱は、選手の情熱となります。サポーターの声は、選手の後押しとなります。ありったけの想い、熱、声が、我々がイレブンの力となります。ありったけの想いを、熱を、声を、ここに集結させましょう。ありったけの想いで、熱で、声で、我々が神戸代表とともに戦いましょう。国立の空に天皇杯を掲げるのは、我々がヴィッセル神戸です。熱き友の想いを胸に宿して、行こう、勝利へ。

WE ARE KOBE!

It has been 1,788 days since that day. Today is finally here, at the same sacred place, the National Stadium. The Emperor's Cup JFA 104th Japan Football Championship Final, the tournament that determines the strongest soccer team in Japan, regardless of professional or amateur status. There is almost nothing left to say about our Vissel Kobe's incredible success since last year. Our powerful attack lineup includes Osako, Muto, Daiki Sasaki, Taisei Miyashiro, and Patric, with experienced midfielders like Ideguchi, Ohgihara, Ide, and Morioka. Talented side-backs include Hatsuse, Sakai, Honda, and Hirose. In the solid center-back lineup, we have Yamakawa, Thuler, Kikuchi, and Iwanami. The goalkeeper lineup is led by Japan national representative Maekawa, with Arai, the PK hero from the Inter Miami match, ready to step in. Under manager Takayuki Yoshida, the team has achieved a style of play where any player on the field can deliver the same strategy with high quality. Our opponent is the blue-and-black powerhouse, Gamba Osaka, led by manager Daniel Poyatos. This year, in his second season, he has guided the team through formidable opponents, defeating Hiroshima in the quarterfinals and Yokohama F. Marinos in the semifinals to reach the final. In the last five years, our record against Gamba stands at five wins, four losses, and one draw. We've faced off many times, but surprisingly, this is our first match in the Emperor's Cup. As last year's league champions, we will stand tall against Gamba Osaka, who have won the Emperor's Cup four times, and challenge them to reclaim the ultimate title. On that day when Vissel Kobe engraved the title of "No. 1 in Japan" in its history, so many Kobe supporters gathered here at the National Stadium. Today as well, the stadium will be filled with crimson red. Once again, we print the same words on this page. Those who gather here, united by their love for Kobe, are comrades and fellow warriors. The supporters' passion reaches the players. The supporters' energy becomes the players' drive. The supporters' voices become the players' strength. With all of our passion, energy, and voices, we empower our eleven warriors on the field. Let's gather our passion, energy, and voices here. With all our passion, energy, and voices, let's fight together with our Kobe representatives. The team that will lift the Emperor's Cup high above the National Stadium will be none other than our Vissel Kobe. With the heartfelt desires of our passionate friends within us, let us go, to victory.

WE ARE KOBE!

## 神戸讃歌

俺達のこの街に お前が生まれたあの日  
どんなことがあっても 忘れはしない

共に傷つき 共に立ち上がり 美しき港町 俺達は守りたい  
これからもずっと 歩いてゆこう 命ある限り 神戸を愛したい  
オオオーオ オオオオオー...

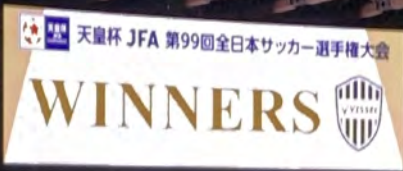


## KOBE AWAY MARCH

どこまでも行こうぜ 勝利を信じて  
熱き友の想い 胸に宿して  
行こう 勝利へ  
トモニ戦え ラーララ ララララ!  
歌声響かせろ (KOBE!) 遠く神戸まで (KOBE!)  
さぁみんなで帰ろう 神戸に帰ろう  
勝利この手に!

## 2024年度日程

節		日時	会場	勝敗・得点	節	対戦相手	日時	会場	勝敗・得点
ワールド チャンピオンズ	トッテナム ホットスパー	7月27日(土) 19:00	H 国立	● 2-3	MD <sub>2</sub>	山東泰山	10月 2日(水) 19:00	H 御崎公園	○ 2-1
ワールド チャンピオンズ マッচে	ランス	8月 3日(土) 19:00	H ノエスタ	○ 1-0	33	京都サンガF.C.	10月 6日(日) 14:00	A サンガS	○ 2-3
25	川崎フロンターレ	8月 7日(水) 19:00	A 等々力	● 3-0	34	FC東京	10月18日(金) 19:00	H ノエスタ	● 0-2
26	横浜F・マリノス	8月11日(日) 19:00	A 日産ス	○ 1-2	MD <sub>3</sub>	蔚山H D	10月23日(水) 19:00	A 蔚山総合	○ 0-2
27	ガンバ大阪	8月17日(土) 19:00	H ノエスタ	△ 2-2	天皇杯 準決勝	京都サンガF C	10月27日(日) 15:00	H ノエスタ	○ 2-1
天皇杯 16	柏レイソル	8月21日(水) 19:00	A 三協F柏	○ 0-1	35	ジュビロ磐田	11月 1日(金) 19:00	H ノエスタ	○ 2-0
28	サガン鳥栖	8月25日(日) 19:00	H ノエスタ	○ 2-0	MD <sub>4</sub>	光州F C	11月 5日(火) 19:00	H 御崎公園	○ 2-0
29	アビスパ福岡	9月 1日(金) 19:00	A ベスタ	○ 0-2	36	東京ヴェルディ	11月10日(日) 14:00	A 味スタ	△ 1-1
30	セレッソ大阪	9月13日(金) 19:00	H ノエスタ	○ 2-1	天皇杯 決勝	ガンバ大阪	11月23日(土) 14:00	H 国立	○ -
MD <sub>1</sub>	ブリーラム・ユナイテッド	9月17日(火) 21:00	A ブリーラム	△ 0-0	MD <sub>5</sub>	CCマリナース	11月26日(土) 19:00	H 御崎公園	○ -
31	アルビレックス新潟	9月22日(日) 18:00	A デンカS	○ 2-3	37	柏レイソル	11月30日(土) 14:00	A 三協F柏	○ -
天皇杯 準々決勝	鹿島アントラーズ	9月25日(水) 19:00	H ノエスタ	○ 0-3	MD <sub>6</sub>	浦項スティーラーズ	12月 3日(火) 19:00	A 浦項	○ -
32	浦和レッズ	9月28日(土) 19:00	H ノエスタ	○ 1-0	38	湘南ベルマーレ	12月 8日(日) 14:00	H ノエスタ	○ -



# 2020.1.1 新国立競技場

2020年元日、日本スポーツ界の新たな歴史が始まった日。生まれ変わった国立競技場で最初の1ページを刻んだのは我らがヴィッセル神戸だった。

2019シーズンは日本代表経験のある山口蛍、西大伍、スペイン代表歴代最多得点のピジャを補強。イニエスタ、ポドルスキ、古橋亨梧など豪華陣用がさらにグレートアップし、リーグ初優勝も夢ではなかった。しかし現実には甘くなかった。派手な攻撃陣は一定の結果を残すも守備が安定せず勝ち点を稼げず、監督も二度変わるなどリーグ戦は下位に低迷した。守備のテコ入れを図るため、夏の移籍市場で酒井高德、そして現役ベルギー代表フェルマーレンを獲得、ここから一気に調子を上げてきた。

リーグ戦は前半の躓きが響き8位が精一杯だったが、天皇杯は順調に勝ち上がり初の決勝進出を果たした。決勝の相手は数々のタイトルを獲得してきた鹿島。この試合のスターティングメンバーはGK飯倉、DFタンクレー、大崎、フェルマーレン、MF西、山口、イニエスタ、酒井、FWポドルスキ、古橋、藤本。試合開始から神戸がペースを握り前半18分にポドルスキの強烈なシュートがオウンゴールを誘い先制。38分には西のクロスを相手DFがクリアミスしたところを藤本が押し込み追加点。後半もペースを握りあわやのシーンは作るも追加点は奪えなかったが危なげなく試合を運び、ATにはこの試合を最後に引退するピジャを投入、そしてホイッスル。新国立競技場とヴィッセル神戸に新たな歴史が刻まれた。



初めて獲得したタイトルとあってピッチ上もゴール裏もまさにお祭り騒ぎ。そんな中、個人的に一番印象に残ったのが、残念ながらこの日はベンチ外となったサンベルが試合終了と同時にユニフォーム姿で喜び合っていた姿、そしてフィンク監督が自分のメダルをサンベルに授けたシーン。他にもこの試合を最後にチームを去るウエリントンへの感謝のメールなど名シーンは数え切れず。まさにチーム一体となって獲得したタイトルだった。あのときの感動を今日再び味わおう。

# 2024 天皇杯 これまでの歩み

新国立柿落とし、そして初タイトルを手にした2019シーズン以来、5年ぶりの決勝進出を果たしたヴィッセル神戸。3つ目の☆獲得まであと少しのところまで来ている。ここでは今大会ここまでの戦いを振り返ってみよう。

大会初戦となる2回戦の相手はJ3富山。直前のルヴァン杯でPK戦の末敗れた相手だ。前半早々に宮代のゴールで先制すると、後半にもパトリックが追加点。危なげなく2-0で勝利した。続く3回戦はJ2徳島とのアウェイゲーム。近場ということもあり大勢の神戸サポーターが駆けつけた一戦は前半に佐々木がPKを失敗、嫌な流れが漂うが後半に汚名返上のゴール。さらに大迫が交代後即ゴールを決めまたまた2-0完勝。4回戦の相手はJ1柏。日立台ではとにかく勝てない試合が続いているが開始早々に飯野のクロスが佐々木が合わせて先制点。その後は一進一退の攻防が続いたが、終盤にバックパスを受けた新井が脚を振りボールロスト、絶体絶命のピンチだったがシュートミスに助けられ1-0で逃げ切り。準々決勝に駒を進めた。

準々決勝はJ1鹿島との対戦。この試合、なんと直前の試合から11人全員変更、更に大迫や武藤はベンチ入りすらしない大胆な選手起用を試みたがこれがどハマリ。序盤に帰ってきた漢・森岡の技ありポレーで先制するとその後鹿島を翻弄。終盤に見事な連携から佐々木が追加点、さらに井手口がミドルを突き刺し勝負あり。3-0で難敵を退けた。準決勝は夏場からJ1で猛威を奮っている京都と対戦。序盤に宮代のヘッドで先制するも、京都の強力ブラジリアンに僅かな隙を突かれ同点。今大会初失点となったが後半開始早々にPKを獲得、佐々木のキックはセーブされるもこぼれ球を冷静に流し込み勝ち越しに成功。佐々木はなんと天皇杯4試合連続ゴール。その後宮代がネットを揺らすのがオフサイドの判定。終盤は押し込まれあわやの場面もあったが耐え凌ぎ試合終了。決勝への切符を手に入れた。

今大会はスコアこそ接戦だが、内容では圧倒的に支配している試合が多い。またリーグ戦で出番の少ない選手達が躍動しているのもチーム力が増している証だ。決勝の相手は宿敵ガンバ大阪。かつては手の届かない存在だったが今は違う。国立に集まったサポーターの神戸魂を結集し、必ずや3つ目の☆を手に入れよう。

**Facebook**  
<http://www.facebook.com/kobeap>  
**Blog** <http://kobeap.net/>  
**Twitter** @kobeap



KOBE AWAY PRSS編集部では、**試合展望やコラムを書いて頂ける方、写真提供できる方を大募集中**です。少しでもご興味持っていただけましたら、配布している編集部員に直接お声がけいただくか、Facebook/Twitterにてご連絡ください。よろしくお願いします。

<b>1</b> GK 前川 黛也	<b>21</b> GK 新井 章太	<b>39</b> GK 高山 汐生	<b>50</b> GK 柁 巴 丸 柁 柁	<b>3</b> DF マテウストゥール
<b>4</b> DF 山川 哲史	<b>15</b> DF 本多 勇喜	<b>19</b> DF 初瀬 亮	<b>23</b> DF 広瀬 陸斗	<b>24</b> DF 酒井 高德
<b>55</b> DF 岩波 拓也	<b>81</b> DF 菊池 流帆	<b>2</b> MF 飯野 七聖	<b>6</b> MF 扇原 貴宏	<b>7</b> MF 井手口 陽介
<b>14</b> MF 汰木 康也	<b>16</b> MF 齊藤 末月	<b>18</b> MF 井出 遥也	<b>22</b> MF 佐々木 大樹	<b>25</b> MF 鎌先 祐弥
<b>30</b> MF 山内 翔	<b>31</b> MF 中坂 勇哉	<b>44</b> MF 日高 光揮	<b>88</b> MF 森岡 亮太	<b>96</b> MF 山口 蛍
<b>9</b> FW 宮代 大聖	<b>10</b> FW 大迫 勇也	<b>11</b> FW 武藤 嘉紀	<b>26</b> FW ジェアンパトリック	<b>35</b> FW 富永 虹七

▽ トップチーム

## ▽ KOBE AWAY PRESSからのご協力をお願い

KOBE AWAY PRESSを他のお友達にすすめたいという方や自分のお店において配ってもいいよという方は大歓迎です。一人でも多くのサポーターを誘ってアウェイゴール裏に駆けつけましょう!

KOBE AWAY PRESSのPDF版ダウンロード、およびKOBE AWAY PRESSに関するお問い合わせは、以下のURLにアクセスしてください。



**KOBE AWAY PRESS PDF版ダウンロード**  
<http://kobeap.net/> 発行: KOBE AWAY PRESS編集部  
**Facebook** <http://www.facebook.com/kobeap>  
**Twitter** [@kobeap \(https://twitter.com/kobeap\)](https://twitter.com/kobeap)



## 編集後記

天皇杯決勝。今回はポドルスキ、ピジャ、そしてイニエスタがいました。今は、大迫、武藤、佐々木大樹、宮代大聖、鎌先祐弥と、新たな戦士たちが揃っています。あれから5年。チームは変わりましたが、私たちが挑戦者であることに変わりはありません。再びのタイトル、そして二冠を目指して。栄光掴むため 闘おうぜ神戸 さあ俺達と共に突き進め 神戸魂見せてやれ(な)

アウェイゲームの写真提供して下さる方を募集しています。提供して下さる方は各SNSのDMにご連絡ください。



このKOBE AWAY PRESSをSNS等でシェアしてください!